

教育格差の解消に向けた一歩

各国外務大臣の皆さん、愛知・名古屋へようこそ。皆さんは「愛知」という文字が表すものをご存じでしょうか。「愛」は Love、「知」は Wisdom を意味します。

この度は、私たち生徒の考えを直接お伝えする貴重な機会に恵まれ、幸運に思います。私たちは「地球市民」として、誰もが人間としての幸福を追求できる地球社会の実現を心から望んでいます。そのような社会の実現を妨げているものは何かと話し合うなかで、現在の社会における様々な「格差」があることに気付きました。とりわけ、「教育」における格差がその他のさまざまな「格差」に結びついていると考え、この教育格差を減らすことが根本的な課題であると実感しています。生徒である私たちは十分な教育を誰もが受けることが出来るようにしていきたいと思えます。

世界では途上国、先進国ともに教育を受けることが出来ている人と出来ていない人の間に格差が生まれています。教育を受けることが出来ないと、多くの不利益に苦しむこととなります。仕事に就くどころか探すことさえ困難であると想像できます。これでは生活に必要な安定した収入を得ることができません。教育を受けて来なかった大人や親たちは、子どもたちに教育の大切さを教えることができず、子どもたちもまた教育を受けないまま大人になるという悪循環が生まれてしまいます。

教育への支援はこれまでも行われてきましたが、教員不足の問題はいまだ解決に至っていません。ユネスコによると、現状、全世界の子どもたちが小学校に就学するためには、推定 1800 万人の教員が不足しています。いくら学校を作っても、そこで教える教員がいなければ授業ができず、教育は成り立ちません。よって、教員不足は教育問題の中でも非常に重要な問題だといえます。

これらの現状について討論した結果、問題を解決するために以下の 2 つの手段を考えるに至りました。

1 つ目は、「遠隔授業」です。遠隔授業では、通信網と通信手段さえ整えば、場所や時間の制約なく授業を受けることができます。教員が少なくても、授業動画を 1 本作れば、それを何回も利用することができます。レベル別の動画を用意することで、必要な授業だけを選んで受けることもできます。職業のための資格取得に関する学習も可能になります。

2 つ目は、「フィードバックと情報共有」をすることです。現在、多くの国が教育の分野において、支援等に取り組んではいますが、このような支援の結果や反省点、方法等を国際間で共有することで、より効果的な支援ができるのではないかと考えました。

この 2 点を実現するために、私たちは国際社会が協調し、専門機関を設置することを提案します。これによって、遠隔授業を可能にする通信網の整備や効果的・効率的な授業動画の研究・制作、支援の結果について情報共有するシステムの構築などが可能になります。

このように、教育の格差を少しでもなくすことが出来たら、貧困やジェンダーにおける格差、経済格差などたくさんの課題の解決につながり、SDGs 達成にも大いに貢献できると私たちは確信しています。教育によって世界中の子どもたち、大人たちの視野と可能性が広がり、一人ひとりが輝かしい未来に向けて前進できる社会作りにつながります。「愛・Love」と「知・Wisdom」を分かち合い、誰にでも居場所と活躍の場のある世界を一緒に目指しませんか。

それでは皆様、愛知・名古屋でのご滞在をお楽しみください。ご清聴ありがとうございました。